

**本園の教育
目標**

幼稚園に係るすべての人が成長と喜びを感じることを出来る幼稚園にすることを目標としている。豊かな自然の中での幼児の遊びを通しての教育を目標としている。幼児が自分で考え選択し行動できる教育を目標としている。

本年度の重点的に取り組む目標

- ① 本園の教育目標「共生」を基にした保育計画に基づいた保育を実施する
- ② 自園給食、食育に対する取り組みについて
- ③ さくら・さくらんぼリズムについて
- ④ 自然保育について

評価項目	取組状況と結果	
本園の教育目標を取り入れた保育計画を立てて保育を行うことができたか	今年度から認定こども園に移行したが、しらぎく保育園の職員を移動することで、そのまま保育部の1,2歳児を行うことができた。保育部も本園の保育の考え方を取り入れて生活と遊びを主体とした保育を行う事が出来たと思う。2,3号認定児が増えたことで、システムの変更、発想の転換で当初は混乱もあったが、一つずつ改善を重ね、落ち着いてきている。	A B C D
自園給食、食育に対する取り組みについて	例年の年長組のお米作りは、粳蒔き、田植えから稲刈り、脱穀して精米したお米を給食で出し、おにぎりにして食べるという食育ができた。その他園内の畑で夏野菜のきゅうり、茄子、ピーマン、ズッキーニを植えて食べきれない程豊産だった。秋以降は小松菜、カブ、白菜、春菊を苗植えから収穫まで行い、給食や調理実習(小松菜のおひたし)で子ども達が味わうことができ、畑をフル稼働して食育活動を行うことが出来た。	A B C D
さくら・さくらんぼリズムについて	熱中症警戒アラートの発令が続く等、外で思いっきり遊ぶことが難しい状況にある中、リズムあそびで、季節や天候に左右されず年間を通して身体を鍛えることができた。ピアノをよく聴き自分で判断して動くことで、考える力・集中力が身についてきている。参観に取り入れたことで、家庭でも親子で一緒に遊んだり、会話したりとコミュニケーションの時間に繋がったと思う。	A B C D
自然保育について	年少組以上で、自然環境教育としてムツレ・クニュータナ教室を行った。身近な草花や虫、はっぱが土に戻る様子を観察する等の活動を行った。年長組では葉緑素(クロロフィル)の存在を知って、自然の循環への理解を深めることができたと思う。身近な自然に対する子ども達の関わり方にも変化が感じられた。上西郷川への川遊びを今年は年中組、年長組とも1~2回行き、地元の自然の中で、生き物を観察することが出来た。又どろんこ広場や花壇で育てる自然環境は今後も充実させていきたいと思う。	A B C D

本園の総合的な評価結果と今後の課題

重点的に取り組む評価項目については職員会議などを通してそれぞれ自己点検・自己評価を行なった。

●認定こども園への移行にともない、前半は教室の配置換えやシステムの更新等、様々な場面で変更に対応していく必要があったが、幼稚園部と保育園部での打ち合わせを通して、運営のやり方や棲み分け方が確立されてきた。一方で子ども達は、猛暑の影響もあったが、外遊びを中心とした生活を楽しみ、一人ひとりが園内の環境を身近に感じながら毎日を過ごし、のびのびと成長していく姿を見せてくれたと思う。草花やどんぐり、葉っぱ、落ち葉といった自然環境も、その時期に沢山の恵みを与えてくれて、思いきり遊びに活用することができたと思う。先生達も季節や環境の変化を意識し、子ども達の遊びを引き出す援助を行うことができた。素朴な遊びの一つ一つに、子ども達の創造力や社会性を引き出し、成長を促す力があると考えている。

●今年は園内の畑をフル稼働させて、食育活動を例年になく沢山出来た年であった。今後も食育活動は年間を通じて沢山行い、身近な自然と触れあい、五感で味わうことで子ども達の自然経験を豊かにしていきたい。栽培するものも、子ども達が育ててみたいものや、今迄栽培したことのない新しいものにもチャレンジしてみたい。

園芸療法というものがあり、まだ研究は少ないものの、園芸活動に参加した3-5歳の幼児の行動観察により、幼児たちの社会的スキル、自己肯定感、集中力が向上したことが報告されているなど子ども達の成長にもつながる重要な活動として今後も行いたい。

●年長は7月に例年の夏の催しを行った。今年は「みらくる☆わーど」というテーマで、各クラスで考えた、以前より自由な発想の製作物を展示し、お店屋さんごっこ形式で楽しんだ。魚釣りをして釣った魚をお寿司にして持ち帰ったり、宇宙のブラックホールからホワイトホールに繋がるトンネルは、何でも吸い込むホールから何でも吐き出すホールが繋がっているなど子ども達の面白い発想を汲み上げて、具体化することができるようになってきたと思う。今後は開催時期を例年の7月か、色々な経験をした後の秋頃が良いのか、今までの考えに縛られず根本的なところから考え直して検討したい。

●来年度から未満児クラスがもう一つ増え認可定員通りでの運営になる。0歳児も初めて預かることになるので職員の採用・配置など体制を整えていきたい。年長組は来年度から4クラスから3クラスになる。学年規模が大きすぎて何をするにも日数がかかったりした部分は改善されると思う。今後もより子ども達の遊びと生活を充実させることで、成長を支えていける保育を行っていきたい。こども主体の保育も職員は色々試行錯誤しながらも、いい実践も増えてきた。今後もより質の高い保育を目指していきたい。

今年度は以上の通り自己評価します。

しらぎく幼稚園
園長 塩川大輔

令和6年度の学校自己評価を令和7年1月28日に園内で行いました。スライドや動画を交え、1年間の保育の様子をご覧いただきました。

参加された評議員の評価
全員に全ての項目でA評価をいただきました。

・元福津市教育長 大嶋 正紹 さん

本園の自己評価表を読ませていただいた上で、自己評価についてのスライドを拝見しながら説明をお聞きして、気づいたことについて述べます。

本園の教育目標「共生」とそれを具現化する「豊かな自然」「遊びを通した学び」「自己選択」は、とても良いと思います。

幼児のよりよい成長発達にとって不可欠で大切な自然と遊びと人との関わりを重視した教育・保育が非常に重要だからです。

具体的には「共生」を目指した保育計画とそれに基づく食育、リズム遊び、自然保育に重点をおいて教育・保育に取り組まれています。

食育では、自分たちが植えたり、お世話したり、収穫したりしたお米や野菜等を自園給食で調理された給食として食べて感謝する体験が年間を通して設定されています。これは、知・徳・体を総合した生きる力を育む教育として価値高いものです。

さくら・さくらんぼリズムでは、年間を通して音楽環境の中で楽しく体を動かす機会が設定されていて、大切な運動が保障され、とても良いと思いました。

保護者の方達の保育参加を取り入れたことも大人との関わりを豊かにしていく意味で良いと思います。

自然保育では、直接自然とふれあう活動やどろんこ広場で遊ぶ活動が設定されています。これは、幼児が自然の生き物や植物の命や営みの不思議さにふれ知的好奇心の芽生えを育み、友達との十分な関わりを生み出す非常に意義深いものです。

また、遊びや生活の遊びの場面で幼児の思い・願いや気づき・考えを取り上げて具現化することに心がけた保育は、幼児の自発性を生かし、自分で考え行動できる力を育てる意味で大切であり、これからますます重要になってくると思います。

・いそどり信愛保育園 安徳 尊博 先生

今年度は、認定こども園への移行という大きな変革の時を迎えられた初年度で、システムや仕組みなどの変更、また新しいことも始まり、大変だったこともあると思いますが、これから、年数を重ねていくことで、新しい文化が築きあげられてくると思います。

システムがどれだけ変化しようが、子ども達が主体的に活動できる体験の場を大切にされているなと感じました。

自然体験や食育体験、また健康な体づくりなどの活動報告を聞かせていただき、子ども達のために、とても素敵な体験の場が多く設けられ、その一つ一つの体験を通して、子ども達の興味関心、好奇心、意欲や感性が大きく育まれていると感じましたし、自然物と触れ合い、子ども達の発想が自由に生かされていると感じました。また、一つひとつの体験を通して、豊かな人間関係も築き上げられているなとも感じました。

これもしらぎく幼稚園の春夏秋冬を感じることができる素晴らしい園内環境、そして、何よりも温かい先生方の人的環境がしっかりと整っているからこそだと感じました。先生方が連携し、子ども達のために様々な体験の場を提供したい、チャレンジできる機会を提供したいという、熱意や情熱も感じました。素晴らしいチームだと思っています。

これからも子ども達にとって喜び溢れる経験が増え、子ども達自身が幼少期の思い出が心や記憶に刻まれ、一人ひとりの自尊感情が大きく育まれていくことを願っています。

この度は、参加させていただきありがとうございました。

保護者の方から 5名ご参加いただきました。

・春には花、夏には水遊び、秋には落ち葉やどんぐり、冬にはお正月遊びなど、子どももとても楽しそうに幼稚園での季節の遊びの内容を話しており、そのような環境を作り、関わり方を意識してくださっているのを子どもを通じて実感出来ます。また、夏の裸足保育も整備が大変な中実施くださり、足の発育に良い影響が出るのではないかと感じています。(ポケットから葉っぱがたくさん出てきたり、家族でのお出かけでもすぐ裸足になりたがるのが玉にキズですが。。)

野菜を育てて食べることが、子どもにとって楽しい経験のようで、食べ物大切さや育ててくれている方への感謝など感じることに繋がっているようなので、ぜひ続けていただきたいです。

・どの目標に対しても真摯に取り組んであって、子供たち主体で考えてくださっていることが伝わってきました。安心して子供たちを通わせることができ感謝です。

先生も子供も無理なく、が一番だと思えますので今後も柔軟な発想で活動に取り組んでいただけると保護者としてもうれしいです。

・長男が年中の時に転園してきて、子供たちがお世話になり6年目になります。当初から感じていますが、本当に良い先生方ばかりで、豊かな自然の中でのびのびと過ごす事ができ、子供達も楽しく過ごせている事に感謝しています。

遊びも広い意味での勉強です。しらぎく幼稚園の豊かな自然の中での生活や遊びを通して、自立心や協同性、お友達との関わり方や豊かな感性を育む事が出来ていると感じています。

園の教育目標の中に、幼児が自分で考え選択し行動出来る教育。とあります。子ども主体の保育が大切だと言われていますが、幼児期の子供達には早すぎるのでは？と考えていました。そんな中、夏の催しでクラス毎に行う店屋さんごっこがありました。子ども達が出した難しそうな案を、否定せず、尊重し、子ども達と先生方で一緒に試行錯誤して、作り上げた事を聞き、素晴らしい経験をさせて頂いたなど感じ、この主体的な保育から沢山の事を得る事が出来るのだなと思いました。この環境を作って下さっている、園長先生はじめ、先生方、事務の先生方に、日々感謝しています。ありがとうございます。拙い文章で恐縮ですが、これを評価とさせていただきます。

しらぎく幼稚園愛に溢れた評価会に楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。

・子ども主体の保育をこれからも続けてください。応援しています。

先生方が結婚・出産・子育てしながらでも働きやすく、やりがいを感じられる職場であることを願っています。

・未満児クラス(保育部)しか経験していませんが、毎日本人が楽しそうに登園しており、先生方には感謝しております。

来年は年少になり、お弁当の日が始まるのが少し不安です。共働きで、日々頑張っって子どもとの時間を確保している生活で、朝お弁当の準備が必要になるのは正直負担です。お弁当の教育的ねらいや楽しみにしているご家庭もあると思うので、無くしてほしいとは思いませんが、回数を減らしていただけると個人的にはありがたいです。